

建学の精神はなぜ必要か

経済学部経済学科教授 三崎 一明

1

国立大学は平成15年(2003)7月に成立した国立大学法人法等関係6法により、平成16年(2004)4月から法人化された。いわば国立大学の一部分が私立大学化したということである。また、平成16年には私立学校法が一部改正され、平成17年(2005)4月より改正私立学校法が施行されている。大学をめぐる環境の変化が激しくなったようである。

学生の多くが私立大学でなく、国立大学を目指す要因のひとつに、私立大学に比較して国立大学の学費が安いことがあげられる。なぜそうなるのか。まず私立大学の補助金¹をみると、つぎのようになっている。

表1 私立大学補助金

	私学補助金総額	うち特別補助
昭和45年度	132億円	0円
昭和50年度	1,007億円	17億円(補助金総額の1.7%)
平成16年度	3,263億円	1,064億円(補助金総額の32.6%)
平成17年度	3,292億円	1,099億円(補助金総額の33.4%)
平成18年度	3,313億円	1,109億円(補助金総額の33.5%)

資料：文部科学省(2007b)

私立大学の補助金総額は平成16年度、3,263億円であり、昭和45年度の約25倍である。これに

1 昭和24年の私立学校法(59条)により、私立学校は助成を受けられるようになる。私立大学の補助は昭和45年から規模が大きくなり、昭和50年に私立学校振興助成法が成立することで法律にもとづく補助となる。同法4条1項は、経常費経費の2分の1以内を補助することができる」と規定している。経常費に対する補助は、一般補助、特別補助、平成14年に創設された私立大学教育研究高度化推進特別補助がある。

対して、国立大学の交付金・補助金をみると、つぎのようになる。

表 2 国立大学交付金・補助金

国立大学交付金・補助金

平成16年度	1兆3,869億円
平成17年度	1兆3,618億円
平成18年度	1兆2,727億円

資料：文部科学省『文部科学白書』各年度

平成16年度の国立大学の補助金総額は私立大学のそれの約4倍である²。平成18年度は3.8倍である。ところで平成17年度の4年制大学数は、726校あり、そのうち国立大学は87校、公立大学は86校、私立大学は553校である。私立大学は大学の76%をしめているにもかかわらず、補助金額は大学数の16%にしか過ぎない国立大学の4分の1である。国立大学の1校当たり交付金・補助金約161億円に対して、私立大学1校あたりの補助金は約6億円である。国立大学1校あたりの交付金・補助金は私立大学1校あたりの補助金の27倍である。

表 3 入学金・授業料・施設設備費

	東京大学	追手門学院大学
	経済学部	経済学部
入学金	282,000円	260,000円
授業料	535,800円	750,000円
施設設備費	—	245,000円

資料：東京大学(http://www.u-tokyo.ac.jp/stu04/e03_i.html)、『追手門学院大学入試ガイド2008』

したがって私立大学は財政基盤を強化するために、国立大学に比較して学費に依存する割合が高くならざるをえない。表3で、追手門学院大学経済学部と東京大学経済学部との学費の比較をしている。授業料は1年間であるので、4年間で卒業するとすれば東京大学経済学部の4年間の授業料は、 $535,800円 \times 4年 = 2,143,200円$ 、必要になる。入学金と合計すれば、 $282,000 + 2,143,000$

2 大学進学率は、約50%である。2人に1人は大学に進学しない人がいる。そのうちの何割かの人は働くことになる。働いて収入をえると、税金を納めることになる。大学教育を受けないことにたいして国からの補助はない。国立であれ、公立であれ、私立であれ、大学生であれば、多い少ないの違いはあるが、税金からの恩恵を受けることができる。これにたいして、大学に進学しなかった人は税金を納めるだけである。税金を注ぎ込まれた大学教育を受けることで、将来高収入をえる確率は高くなる。

=2,425,200円である。施設設備費はない。これに対して、追手門学院大学経済学部の授業料は、750,000円で、さらに施設設備費245,000円が含まれる。4年間の学費は260,000+3,000,000+980,000=4,240,000円である。追手門学院大学経済学部と東京大学経済学部との4年間の学費の差は、4,240,000円-2,425,200円=1,814,800円である。交付金・補助金のちがいが、私立大学と国立大学との学費の違いとしてあらわれる。

表4 大学の学生納付金 (2001年)

	日本	アメリカ	イギリス	フランス	ドイツ
国立	773,800	413,000	193,000	14,000	16,300
私立	1,288,481	1,796,000			

(単位：円)

- 注) 1. 初年度学生の納付金額(入学金+授業料+その他)である。
2. 日本の場合、「その他」は施設設備費である。
3. アメリカの場合、国立・私立ともに総合・4年制大学の事例であり、州立大学の総合・4年制大学を国立とし、かつ州内学生の納付金額を記載している。入学料はなく、「その他」は実験費、演習費などである。
4. イギリスの場合、入学料はなく、「その他」は登録料、試験料などである。
5. フランスの場合、入学料、授業料はなく、年間学籍登録料である。このほかに健康保険料を納付する。
6. ドイツの場合、州立大学を国立大学とし、2003年度冬学期(1年2学期制)におけるボン大学の学生納付金である。入学料、授業料は徴収しない。「その他」は公共交通機関利用のための学生バス代と学生福祉会経費などの合計である。

資料：文部科学省(2005a)

世界の大学の学生納付金を、表4でみる。2001年度の日本の国立大学の学生納付金(入学料+授業料+その他)は773,800円である。これに対して、アメリカは州立を国立と同等とみなして、州立の総合・4年制大学³の全国平均額をみており、3,746ドル、円換算して413,000円である。日本の国立大学の学生納付金の約2分の1である。イギリスの国立大学は、アメリカよりもさらに安い。アメリカ、イギリスともに初年度における入学金はない。フランス、ドイツは入学金に加えて、授業料も徴収しない。日本の国立大学の学生納付金は、フランスの約47倍である。私立大学の学生納付金は、アメリカの場合のほうが高額である。したがって、日本の国立大学の学生納

3 総合大学、4年制大学、2年制大学の区別がある。

付金は、世界の大学においては高額である。しかも、国立と私立の大学の学生納付金の差は、日本よりもアメリカのほうが大きくなっている。日本をみると、国立大学の学生納付金は私立大学の学生納付金に比較して、国内では低額であるが、世界でみると高額である。

世界でみると、日本の国立大学の学生納付金は高額である。理由は高等教育に投下される公的資金の差にある。2001年の学生1人あたりの公財政支出高等教育費は、日本が4,812ドル、アメリカが7,560ドル、イギリスが7,636ドル、フランスが7,564ドル、ドイツが9,590ドルで、OECD各国平均は7,861ドルである。もっとも低額のアメリカでも日本の1.6倍である⁴。

また、各国の私立大学の割合は、学生数でみて日本の74.7%に対して、アメリカ23.9%、イギリスは0.1%未満(バッキンガム大学だけである)、フランスの私立大学は学位授与権を認められていない私立大学が1.5%であり、ドイツは1.9%である⁵。日本の私立大学の学生数は、国内でみてもおおいけれど、世界でみるとさらにおおい。

世界的にみて日本の高等教育に対する公的負担は少ない。全体の額が少ないうえに、さらに国立よりも低額の公的負担しかえられない日本の私立大学の学生は、高額な私的負担を強いられていることになる。ところで、交付金・補助金の違いは、当然大学のインフラストラクチャーに反映される。インフラストラクチャーの指標として教員数、学部数、敷地面積、蔵書数をみる。平成17年度の教員数⁶は161,690人であり、そのうち国立大学は60,937人、私立大学は89,327人である。平成17年度の大学数は、国立が87校、私立が553校である。一校あたりの教員数は、国立大学が700人、私立大学は162人である。明らかな差がある。また教員1人当たり学生数をみると、国立大学が10人に対して私立大学24人である。ここでも差違がある。

表5 学生数・教員数

	学校数	学生数	教員数	1校当たり	1教員当たり
				学生数	学生数
国立	87	627,850	60,937	7,217	10
私立	553	2,112,291	89,327	2,476	24

資料：文部科学省(2005b)

つぎに大学の規模を、在学している学生数と学部数、そして大学の敷地で比較してみる。学生数10,000人をこえる規模の大学は、国立大学では21校ある。国立大学の24%にあたる。私立大学では41校あるが、私立大学のうちの7.4%でしかない。5,000人を超える大学は、国立大学のう

4 文部科学省(2005a)p. 69.

5 文部科学省(2007a)p. 96.

6 本務者だけをみる。文部科学省(2005b)参照.

ち60%であるが、私立大学では20%にしかすぎない。

表6 学生数別大学数

	5,000人 以下	5,001人～ 10,000	10,001人 以上	計
国立	35	31	21	87
私立	162	67	41	553

資料：文部科学省(2005b)

学部数をみる。8学部以上かかえる大学は、国立大学では16校あり、その比率は18%である。私立大学では20校あるが、その比率は私立大学のうち4%でしかない。これに対して4学部以下の大学の構成比率は、国立大学の60%に対して私立大学87%である。

表7 学部数別大学数 (平成16年度)

	8学部以上	5～7学部	2～4学部	単科大学	計
国立	16	19	26	26	87
私立	20	51	236	249	556 ⁷

資料：文部科学省研究振興局情報課(2006)

表8 大学の敷地面積

	学校土地(m ²)	校舎・講堂・ 体育施設敷地	1校当たり 学校土地	1校当たり 校舎等敷地
国立	1,326,654,831	75,596,916	15,248,906	868,927
私立	164,104,358	41,844,257	296,753	75,668

資料：文部科学省(2005b)

大学の敷地面積はどうであろうか。学校の土地でみると、国立大学は1,327km²、私立大学は164km²である。違いは歴然としている。校舎・講堂・体育施設の敷地に限定しても、国立大学76km²に対して私立大学は42km²である。これを1校当たりでみると、1校あたりの校舎・講堂・体育施設の敷地は国立大学868,927m²に対して、私立大学は75,668m²である。国立大学の敷地は私立大学の敷地の11倍を超えている。

7 通信教育のみをおこなう学校が3校含まれている。

大学図書館の蔵書冊数と図書館資料費をみる。国立大学の蔵書冊数は9,290万冊である。私立大学の蔵書冊数は1億6,879万冊である。図書館資料費は国立大学の219億37百万円に対して、私立大学は567億2千万円である。これを学生1人当たりの蔵書冊数でみると、国立大学は148冊であるのに対して、私立大学のそれは73冊、国立大学に比べて2分の1である。学生1人当たりの図書館資料費は国立大学の3万5千円に対して、私立大学のそれは2万5千円でしかない。ここでもやはり私立大学に比較して、国立大学のほうが有利である。

表9 蔵書冊数・図書館資料費（平成16年度）

	蔵書冊数 (千冊)	図書館資料費 (百万円)	学生1人当たり 蔵書冊数	学生1人当たり 図書館資料費(千円)
国立	92,907	21,937	147.8	34.9
私立	168,794	56,720	73.3	24.6

資料：文部科学省研究振興局情報課(2006)

私立大学の学部数が国立大学に比較して少ないということは、私立大学には文系の学部が多いということに反映されている。文学部は、私立大学121校に対して国立大学は14校であり、私立大学文学部は国立大学文学部の9倍存在している。法学部、経済学部も同じである。ところが理学部は私立大学15校に対して国立大学は28校である。工学部、農学部、医学部もおなじである。また教育学部も私立大学には少なく、国立大学に多い学部である。私立大学の学部構成には、文系学部が多いという偏りがある。

表10 学部別大学数⁸

	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	農学部	医学部	教育学部
計	146	125	171	51	151	34	78	59
国立	14	20	36	28	59	26	41	48
私立	121	99	120	15	80	6	29	11

資料：文部科学省(2005b)

表10にあげた8学部を設置数の多い学部順に並べるとつぎのようになる。

国立	工学部	教育学部	医学部	経済学部	理学部	農学部	法学部	文学部
私立	文学部	経済学部	法学部	工学部	医学部	理学部	教育学部	農学部

8 大学の合計数には、公立大学が含まれているので、国立大学数と私立大学数を加えても、大学数と一致しない。

国立大学は、国にとって必要であるという社会の共通認識のうえにたって存立している。それが国立大学の学部構成にあらわれている。工学部、教育学部、医学部は87校ある国立大学の半数以上の大学が設置しているのに対して、文学部はわずかに14校だけが設置しているにすぎない。国立大学ではもっとも少ない文学部を設置している大学が、私立大学ではもっとも多くなっている。そして、医学部、理学部、教育学部、農学部を設置している私立大学は少なくなっている。とくに農学部は、設置している大学数34校のうち、国立大学は26校が設置しているのに対して、私立大学は6校しか設置していない。私立大学で設置数が少ない学部は、市場において需要が少なく、かつ供給に高いコストを必要とする学部である。

2

人(教員・学生)・もの(敷地面積・学部数・蔵書冊数)・かね(交付金・補助金・学費)の量的側面について、私立大学と国立大学とを比較した。私立大学は2,112,291人と国立大学627,850人の3.4倍の学生数を抱えているにもかかわらず、これを1大学あたりでみると、人・もの・かねのすべての量的側面において私立大学は国立大学の後塵を拝している。とくに大学の敷地面積をみると、国立大学は私立大学の8倍である。

それにもかかわらず私立大学を創設するのは、国立大学ではできないこと、国立大学には存在しないことで社会に資するということである。それを具現したものが建学の精神である。大学の学部学生 2,508,091人のうち、いまや私立大学生は73%を占め、社会で重要な役割を果たしている。この卒業生はそれぞれの私立大学の建学の精神にもとづいて教育された学生である。

国立大学、公立大学の創設者を問うものはいない。しかし私立大学の創設者は私立大学を象徴する私立大学の大切な顔である。大学創設の精神が、私立大学の創設者に体化されているからである。

国立大学、公立大学とは異なる教育理念があるからこそ、私立大学は設立されるのである。国立大学ではえられないものを求めて、国立大学とは異なるものを創造するために私立大学は設立されるのである。したがって、私立大学においては、独自の大学設立の理念が必要である。これが建学の精神である。建学の精神は、私立大学がなぜ存在しなければならないのか、そのことを言挙げしたものである。建学の精神にそって学生を教育するというのを忘れたならば、私立大学はみずからの存立基盤をなくすことになる。追手門学院の建学の精神は「独立自強・社会有為」である。創設者と建学の精神、このふたつは私立大学の存立基盤である。

星亨がつぎのように述べている。星が暗殺される数日前、明治34年(1901)6月16日東京市教育会における演説の一部である⁹。

9 墨堤隠士(1902)pp. 276-278. 引用文は新仮名遣い、当用漢字に改めたところがある。

「凡そ教育事業に関しては、最も公平なる考えを以て当たらねばならぬのである。世間では星亨が政党员たるの故を以て兎角の評をするものがある。成程我輩は党派には最も熱心で極めて頑固で自ら信ずる事亦決して人に譲らぬ積りである。併し乍ら教育上に対して政治上の如き党派心を挟む如きことは予の断じて為さざる所である。論より証拠で昨年本会創立の際予の指名に一任せられたる評議員の顔触を見るも、予の推薦が如何に公平なりしかを知る事が出来るであろうと思う。従来我国に於ける教育の方針を観るに世界の趨勢と相伴わざるもの頗る多きが如き有様である。我国古来の教育は専ら支那流を模倣したる結果として、総ての事が何々する勿れする勿れで斯くすべし遣るべし取るべし進むべしという、所謂進取の氣象を涵養す可き教えがないのであるから、徒に小康に安んずる所謂隱居主義烏国主義に陥るのである。世界の趨勢は即ち進取主義であるから、将来此消極を棄て、積極の方針を取らねばならぬのである。更に小学の教科書として個人の編集したるものを採用するのは甚だ宜しからざる事である。又儒者学者の言行を多く書いたり歴史の如きも専ら特的人物の性行を記すものが多いが、今日有為の時代に於て斯の如き迂闊極まる人物の性行を児童に教えて何の益する所があるのか、一人の学者が雪隠で考えると、多くの方が大広間で考えるのとは必ず径庭の差があるのであると思う。予が明治2年頃大阪に於て大学分校の教授をした事があるが、其時などは実に不平で堪まらなかった。其は何故かと云えば先生と言われる、連中は教育というものを除外的にして、唯薩長若くは学閥というもの、みに重きを置いたのである。故に予は直ちに辞した事があるが夫れから何うも大学のやる事が総て気に入らぬのである。卒業すれば直に役人になりたがる、出る者出る者孰れも甘んじて非立憲的小役人となる。斯んな根性で何が出来るものか。これは強ち学生が悪いのではなく教育の方針が宜しく無いからである。東京の大学は勿論京都の大学も今日の儘では少しも信頼することが出来ない。故に予は官立の大学は御免を蒙って専ら私立大学の勃興を奨励しなければならぬと考える。夫の慶應義塾若くは早稲田大学の計画の如きは、予の最も望みを属する者である。唯我国には米国の如く教育界のため奮て私財を義捐するの篤志者なきを甚だ遺憾とするのである。去れば資産家をして此觀念を起さしむる方法を講ずる如きも亦本会任務の一であると言わなければならぬのである。」

国立大学だけではなく私立大学が存在することは、権力の独占を防止することにつながる。権力を構成する重要な要素に知識、情報の独占がある。国立大学だけであれば、この知識、情報は一定の人だけに独占されてしまう恐れがある。これを防止するためにも私立大学の存在は重要である。国立大学は社会の共通認識のうえに存在するものであるが、その共通認識が一方に偏らないように、いろいろな価値判断が存在することを知らしめ、社会を活性化させる重要な役割を私立大学は担っている。この価値判断こそが私立大学における建学の精神であり、志である。私立大学は、建学の精神のもとに志ある人が集まるところである。

もちろん、大学教育サービス市場は、需要と供給の世界である。私立大学もこれをまぬがれない。私立大学に対する需要があるから、私立大学は存在している。私立大学に国立大学と比較して、文系学部が多いということは、市場原理を反映しているあらわれである。施設設備費に多額の経費を要する理系の学部では、国立大学との競争は困難であるということである。私立大学の文系学部においても、国立大学との量的側面だけの競争を考えていると、それはその私立大学の存立基盤をあやうくする。量的側面だけを考えていると、国立大学と同じ基盤のうえにたつことであり、国立大学と少しも変わらないことになり、私立大学としての存立基盤をなくすことになる。私立大学の存立基盤は、建学の精神であり、志である。それに共鳴するひとが集まるところである。したがって、私立大学に対する需要を構成している中核は、国立大学にはない、各私立大学の建学の精神に共鳴する人びとである。建学の精神、志をなくしたら、私立大学ではない。

私立大学は多くの人に門戸が開かれていなければならない。そのため、学費はできるだけ低く設定する必要がある。経済的理由で、私立大学に進学できないケースをさけることが望まれるからである。私立大学の財政基盤を強化し、学費を低く抑え、良質の研究・教育を提供するため、私立大学において寄附の占める比重はおおきいといわなければならない。

3¹⁰

ゼミナールという授業科目がある。ゼミナールというのはドイツ語であり、これを日本語では「演習」という。英語ではセミナーという。さらにゼミナールを略してゼミともいう。この演習のように四つもの名称を持つ科目はほかにはない。多くの呼び名を持つということは、それだけ大学が力を入れ、学生に親しまれていて、大学のなかでは人気者であるということである。ではなぜ大学は他の科目に比較して演習を大切にするのか。

大学を卒業したというと、まず聞かれるのがどこの大学を出たのかということである。つぎに聞かれるのが、どの学部を出たのかということである。最後に聞かれるのが、どのゼミを出たのかということである。最初のどの大学を卒業したのかという質問は、なにを勉強し、なにを学んだのかということとは関係がない。なにを勉強し、なにを学んだのかということと関係するのは、2番目と3番目の質問、何学部を卒業して、何を専攻するゼミに選んだのかということのふたつである。とくにゼミでなにを専攻したのかということが重要なことである。だからこそ、ゼミは数百ある履修科目のなかでも必修科目という重要な位置を与えられているわけである。

追手門学院大学経済学部における卒業に必要な単位数は124単位である(ただし、入学年度によっては128単位必要である)。そのなかで必修科目の単位数はわずか16単位にすぎない。重要な科

10 この節は三崎(2006)の一部を書き換えたものである。

目と考えられている必修科目16単位のうち、その半分の8単位がゼミに与えられた単位である。経済学部では、ゼミを重要視しているということの結果である。

通常、大学に入学するといわれていることは、正確に言えば、学部に入學するという事である。さらには学科に入學するという事である。学部に入學することを、通常、その学部が所属している大学に入學すると言い換えたものである。さらに言えば、学部は単科大学の言い換えであり、単科大学の連合体が大学である。それゆえ、大学に入學するために学部・学科の入學試験はあっても、学部・学科の入學試験ぬきの大学の入學試験はない。ということは、大学であなたはなにを勉強するのかということこそが大切になるわけである。1年、2年の準備期間を経て、3年、4年のゼミでなにを専攻するのか明確にすることになる。ゼミを選択するということは、まさに学生の一大事になるわけである。

ところで講義という授業のやり方は、基本的に教員が一方的に授業をすすめて、学生はそれを拝聴し、筆記するという形式である。最近では講義のやり方もいろいろと工夫されてはいるが、基本は変わらない。これに対してゼミというのは、学生が自主的に研究してきたことを発表し、学生同士が自由に討論する場である。学生が自己を語り、学生同士の意見交換を通じて学生が自己形成をおこなう場、学生が中心となる場である。したがって、追手門学院大学経済学部での演習は、追手門学院の建学の精神「独立自強・社会有為」の中核となるものとして位置づけられる。

参考文献

- 『追手門学院大学入試ガイド2008』追手門学院大学，2007.
- 東京大学入学案内，http://www.u-tokyo.ac.jp/stu04/e03_i.html.
- 日本図書館協会図書館調査事業委員会編（2004）『日本の図書館 統計と名簿』（社）日本図書館協会.
- 三崎一明（2006）「しあわせなゼミとかわいそうな卒論」『経済学部白書<経済学ガイド>』，追手門学院大学，pp. 22-25.
- 文部科学省（2005a）『平成17年版教育指標の国際比較』文部科学省.
- 文部科学省（2005b）『平成17年度学校基本調査結果報告書（高等教育機関）』
- 文部科学省（2007a）『平成19年版教育指標の国際比較』文部科学省.
- 文部科学省（2007b）『文部科学白書（平成18年度）』
- 文部科学省研究振興局情報課（2006）『平成17年度学術情報基盤実態調査結果報告』